



CHAPTER 6

Smart Call Home の設定

この章では、Cisco NX-OS デバイスの Smart Call Home 機能を設定する方法について説明します。ここでは、次の内容を説明します。

- 「[Call Home の概要](#)」 (P.6-1)
- 「[Call Home のライセンス要件](#)」 (P.6-8)
- 「[Call Home の前提条件](#)」 (P.6-8)
- 「[注意事項および制約事項](#)」 (P.6-8)
- 「[デフォルト設定](#)」 (P.6-9)
- 「[Call Home の設定](#)」 (P.6-9)
- 「[Call Home コンフィギュレーションの確認](#)」 (P.6-25)
- 「[Call Home の コンフィギュレーション例](#)」 (P.6-26)
- 「[その他の関連資料](#)」 (P.6-26)
- 「[Smart Call Home の機能履歴](#)」 (P.6-39)

Call Home の概要

ここでは、次の内容について説明します。

- 「[Call Home の概要](#)」 (P.6-2)
- 「[宛先プロファイル](#)」 (P.6-2)
- 「[Call Home のアラート グループ](#)」 (P.6-3)
- 「[Call Home のメッセージ緊急度](#)」 (P.6-5)
- 「[Smart Call Home の利用方法](#)」 (P.6-6)
- 「[CFS を使用した Call Home の配信](#)」 (P.6-7)
- 「[データベース マージの注意事項](#)」 (P.6-7)
- 「[ハイ アベイラビリティ](#)」 (P.6-7)
- 「[仮想化サポート](#)」 (P.6-7)

Call Home の概要

Call Home は重要なシステム ポリシーを E メールで通知します。豊富なメッセージフォーマットから選択できるので、ポケットベル サービス、標準 E メール、または XML ベースの自動解析アプリケーションとの最適な互換性が得られます。この機能を使用すると、ネットワーク サポート エンジニアにポケットベルで連絡したり、ネットワーク オペレーティング センター (NOC) に E メールを送信したり、Cisco Smart Call Home サービスを使用して TAC でケースを自動作成したりできます。

Call Home は次の特長を備えています。

- 関連 CLI コマンドの自動実行およびコマンド出力の添付
- 次の複数のメッセージフォーマット オプション
 - ショート テキスト：ポケットベルまたは印刷レポート向き。
 - フル テキスト：目視に適した完全なフォーマットのメッセージ情報。
 - XML：Extensible Markup Language (XML) および Adaptive Messaging Language (AML) XML Schema Definition (XSD) を使用する、調和の取れた判読可能なフォーマット。AML XSD は Cisco.com の Web サイト (<http://www.cisco.com/>) で公開されています。XML フォーマットを使用すると、TAC とのコミュニケーションが可能です。
- 同時に使用する複数のメッセージ宛先。宛先プロファイルごとに、最大 50 の E メール宛先アドレスを設定できます。

宛先プロファイル

宛先プロファイルには、次の情報を指定します。

- 1 つまたは複数のアラート グループ：アラートが発生した場合に、特定の Call Home メッセージを開始するアラート グループ。
- 1 つまたは複数の E メール宛先：この宛先プロファイルに割り当てられたアラート グループが生成した Call Home メッセージの受信先リスト。
- メッセージフォーマット：Call Home メッセージのフォーマット (ショート テキスト、フル テキスト、または XML)。
- メッセージの重大度：Cisco NX-OS が宛先プロファイルに指定されたすべての E メール アドレスに対して Call Home メッセージを生成する前に、アラートが満たしていなければならない Call Home の重大度。Call Home の重大度の詳細については、「[Call Home のメッセージ緊急度 \(P.6-5\)](#)」を参照してください。アラートの Call Home 重大度が宛先プロファイルに設定されたメッセージの重大度に満たない場合、Cisco NX-OS はアラートを生成しません。

毎日、毎週、または毎月の形で、定期的にメッセージを送信するインベントリ アラート グループを使用することによって、定期的にインベントリ アップデート メッセージが送信されるように、宛先プロファイルを設定することもできます。

Cisco NX-OS は、次に示す定義済み宛先プロファイルをサポートします。

- Cisco TAC-1：XML メッセージフォーマットで Cisco-TAC アラート グループをサポートします。このプロファイルは、callhome@cisco.com という E メール コンタクト、最大メッセージ サイズ、およびメッセージ重大度 0 で設定済みです。このプロファイルのデフォルト情報はどれも変更できません。
- full-text-destination：フル テキストのメッセージフォーマットをサポートします。
- short-text-destination：ショート テキストのメッセージフォーマットをサポートします。

メッセージフォーマットの詳細については、「メッセージフォーマット」(P.6-28)を参照してください。

Call Home のアラート グループ

アラート グループは、すべての Cisco NX-OS デバイスでサポートされる、Call Home アラートの定義済みサブセットです。アラート グループを使用すると、定義済みまたはカスタムの宛先プロファイルに送信する、Call Home アラートのセットを選択できます。Cisco NX-OS が宛先プロファイルに指定されている E メール宛先に Call Home アラートを送信するのは、その Call Home アラートがその宛先プロファイルに関連付けられたアラート グループのいずれかに属していて、なおかつ Call Home のメッセージ重大度が宛先プロファイルで設定されているメッセージ重大度と同じかそれより上の場合だけです（「Call Home のメッセージ緊急度」(P.6-5)を参照）。

表 6-1 に、サポートされるアラート グループとともに、アラート グループに対して生成される Call Home メッセージに組み込まれるデフォルトの CLI コマンド出力を示します。

表 6-1 アラート グループおよび実行されるコマンド

アラート グループ	説明	実行されるコマンド
Cisco-TAC	Smart Call Home を宛先とする他のアラート グループからのすべてのクリティカルアラート	アラートが発生したアラート グループに基づいてコマンドが実行されます。
Configuration	コンフィギュレーション関連の定期的イベント	show module show running-configuration vdc-all all show startup-configuration vdc-all show vdc current show vdc membership show version
Diagnostic	診断機能によって生成されるイベント	show diagnostic result module all detail show diagnostic result module <i>number</i> detail show hardware show logging last 200 show module show sprom all show tech-support gold show tech-support platform show tech-support sysmgr show vdc current show vdc membership show version
EEM	EEM によって生成されるイベント	show diagnostic result module all detail show diagnostic result module <i>number</i> detail show module show tech-support gold show tech-support platform show tech-support sysmgr show vdc current show vdc membership

表 6-1 アラート グループおよび実行されるコマンド (続き)

アラート グループ	説明	実行されるコマンド
Environmental	電源、ファン、および温度アラームなどの環境感知コンポーネントに関連するイベント	show environment show logging last 200 show module show vdc current show vdc membership show version
Inventory	装置のコールド ブートのたびに、または FRU (現場交換可能ユニット) の着脱時に提示されるインベントリ ステータス。このアラートは非クリティカル イベントと見なされ、情報はステータスおよび資格目的で使用されます。	show inventory show license usage show module show system uptime show sprom all show vdc current show vdc membership show version
License	ライセンスおよびライセンス違反に関連するイベント	show license usage vdc all show logging last 200 show vdc current show vdc membership
Linemodule hardware	標準またはインテリジェント スイッチング モジュール関連のイベント	show diagnostic result module all detail show diagnostic result module <i>number</i> detail show hardware show logging last 200 show module show sprom all show tech-support ethpm show tech-support gold show tech-support platform show tech-support sysmgr show vdc current show vdc membership show version
Supervisor hardware	スーパーバイザ モジュール関連のイベント	show diagnostic result module all detail show hardware show logging last 200 show module show sprom all show tech-support ethpmshow tech-support gold show tech-support platform show tech-support sysmgr show vdc current show vdc membership show version
Syslog port group	syslog PORT ファシリティによって生成されるイベント	show license usage show logging last 200 show vdc current show vdc membership

表 6-1 アラート グループおよび実行されるコマンド (続き)

アラート グループ	説明	実行されるコマンド
System	装置の動作に重要なソフトウェア システムの障害によって生成されるイベント	show diagnostic result module all detail show hardware show logging last 200 show module show sprom all show tech-support ethpm show tech-support gold show tech-support platform show tech-support sysmgr show vdc current show vdc membership
Test	ユーザが生成するテスト メッセージ	show module show vdc current show vdc membership show version

Call Home は、syslog 重大度を syslog ポート グループ メッセージに対応する Call Home の重大度にマッピングします (『Call Home のメッセージ緊急度』(P.6-5) を参照)。

定義済みのアラート グループをカスタマイズすると、特定のイベント発生時に他の CLI **show** コマンドを実行し、その **show** コマンドの出力を Call Home メッセージで送信できます。

show コマンドを追加できるのは、フル テキストおよび XML の宛先プロファイルだけです。ショート テキストの宛先プロファイルでは、使用できるテキストが 128 バイトだけなので、**show** コマンドの追加はサポートされません。

Call Home のメッセージ緊急度

Call Home を使用すると、緊急度に基づいてメッセージをフィルタリングできます。各定義済みまたはユーザ定義宛先プロファイルを、0 (最小緊急度) ~ 9 (最大緊急度) までの Call Home しきい値と関連付けることができます。デフォルトは 0 (全メッセージを送信) です。

syslog 重大度は、Call Home メッセージ レベルにマッピングされています。



(注)

Call Home がメッセージテキストの syslog メッセージ レベルを変更することはありません。Call Home のログで syslog メッセージがどのように示されるかについては、『Cisco NX-OS System Messages Reference』を参照してください。

表 6-2 に、各 Call Home メッセージ レベルのキーワードと syslog ポート アラート グループの対応する syslog レベルを示します。

表 6-2 重大度と syslog レベルのマッピング

Call Home のレベル	キーワード	syslog のレベル	説明
9	Catastrophic	該当なし	ネットワーク全体の重大な障害
8	Disaster	該当なし	ネットワークに重大な影響

表 6-2 重大度と syslog レベルのマッピング (続き)

Call Home のレベル	キーワード	syslog のレベル	説明
7	Fatal	緊急 (0)	システム使用不可
6	Critical	アラート (1)	即時対応が必要であることを示すクリティカル条件
5	Major	クリティカル (2)	メジャー条件
4	Minor	エラー (3)	マイナー条件
3	Warning	警告 (4)	警告条件
2	Notification	通知 (5)	基本的な通知および情報メッセージ 通常、単独での重要性は薄い。
1	Normal	情報 (6)	正常な状態に戻ったことを伝える正常なイベント
0	Debugging	デバッグ (7)	デバッグ メッセージ

Smart Call Home の利用方法

シスコと直接サービス契約を結んでいる場合は、Smart Call Home サービスに登録できます。Smart Call Home は、Call Home メッセージを分析し、背景説明と推奨措置を提供します。既知の問題、特にオンライン診断障害については、TAC に Automatic Service Request が作成されます。

Smart Call Home が提供する機能は、次のとおりです。

- 継続的なデバイス ヘルス モニタリングおよびリアルタイム診断アラート。
- デバイスから送られた Call Home メッセージの分析。必要に応じて Automatic Service Request が作成され、詳細な診断情報を含め、適切な TAC チームにルーティングされて、問題解決の高速化が実現します。
- デバイスから直接、またはダウンロード可能なトランスポート ゲートウェイ (TG) 集約ポイントを通じて行われるセキュア メッセージ トランスポート。TG 集約ポイントは、複数のデバイスをサポートする場合またはセキュリティ要件によって、デバイスをインターネットに直接接続できない場合に使用できます。
- あらゆる Call Home デバイスの Call Home メッセージおよび推奨事項、コンポーネント情報、設定情報への Web アクセス。関連する現場の注意事項、セキュリティ勧告、および廃止情報にアクセスできます。

登録には次の情報が必要です。

- デバイスの SMARTnet 契約番号
- E メール アドレス
- Cisco.com の ID

Smart Call Home の詳細については、次の Smart Call Home のページを参照してください。

<http://www.cisco.com/go/smartcall/>

CFS を使用した Call Home の配信

Cisco Fabric Services (CFS) を使用して、ネットワーク内の CFS 対応デバイスに Call Home コンフィギュレーションを配信できます。デバイス プライオリティと sysContact 名を除く Call Home コンフィギュレーション全体が配信されます。

CFS の詳細については、「[CFS の設定](#)」(P.2-1) を参照してください。

データベース マージの注意事項

2 つの Call Home データベースをマージする場合、次の注意事項に従ってください。

- マージされるデータベースには、次の情報が含まれます。
 - マージ側デバイスからの全宛先プロファイルのスーパーセット。
 - 宛先プロファイルの E メール アドレスとアラート グループ。
 - マージ側デバイスにあるその他の設定情報 (メッセージ スロットリング、定期的なインベントリなど)。
- 宛先プロファイル名は、マージするデバイス内で重複しないようにしてください。コンフィギュレーションが異なっても、同じ名前を使用できません。プロファイル名が重複している場合、重複するプロファイルの 1 つを削除する必要があります。そうしなければマージ処理が失敗します。

ハイ アベイラビリティ

Call Home ではステートレス リスタートがサポートされています。リブート後またはスーパーバイザ スイッチオーバー後に、実行コンフィギュレーションが適用されます。

仮想化サポート

Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) ごとに Call Home インスタンスが 1 つサポートされます。Smart Call Home では、最初に登録された VDC のコンタクト情報を物理デバイス上のすべての VDC の管理者コンタクトとして使用します。たとえば、Smart Call Home でデフォルト VDC のコンタクト情報が使用されるようにするには、その VDC を使用して登録する必要があります。この情報は次の URL から、Smart Call Home の Web サイトでアップデートできます。

<http://www.cisco.com/go/smartcall/>

Smart Call Home は他のすべての VDC のコンタクトを、物理デバイス上のすべての Call Home データを参照できるけれども、管理者として動作することはできないユーザとして登録します。すべての登録ユーザおよび登録管理者は、物理デバイス上のすべての VDC からすべての Call Home 通知を受け取ります。

デフォルトでは、デフォルトの VDC が使用されます。『Cisco Nexus 7000 Series NX-OS Virtual Device Context Configuration Guide, Release 5.x』を参照してください。

Call Home は Virtual Routing and Forwarding (VRF) を認識します。特定の VRF を使用して Call Home SMTP サーバに接続するように Call Home を設定できます。

Call Home のライセンス要件

製品	ライセンス要件
Cisco NX-OS	Call Home にはライセンスは不要です。ライセンス パッケージに含まれていない機能は、Cisco NX-OS システム イメージにバンドルされて提供されます。追加料金は発生しません。NX-OS ライセンス方式の詳細については、『Cisco NX-OS Licensing Guide』を参照してください。

Call Home の前提条件

Call Home の前提条件は、次のとおりです。

- E メール アドレスにメッセージを送信するには、まず E メール サーバを設定する必要があります。HTTP を使用してメッセージを送信するには、HTTPS サーバにアクセスでき、Nexus デバイスに有効な証明書がインストールされている必要があります。
- デバイスは E メール サーバまたは HTTPS サーバと IP 接続している必要があります。
- まず、コンタクト名 (SNMP サーバのコンタクト)、電話番号、および住所情報を設定する必要があります。受信メッセージの発行元を特定するために、この手順が必要です。
- Smart Call Home を使用する場合は、設定するデバイスに有効なサービス契約が必要です。
- VDC を設定する場合は、Advanced Services ライセンスをインストールします (『Cisco Nexus 7000 Series NX-OS Virtual Device Context Configuration Guide, Release 5.x』を参照)。このライセンスは Call Home ではなく、VDC のためだけに必要です。

注意事項および制約事項

Call Home に関する設定時の注意事項および制約事項は、次のとおりです。

- IP 接続機能がない場合、または宛先プロファイルに対する VRF のインターフェイスが停止している場合、Call Home メッセージを送信できません。
- Call Home はあらゆる SMTP サーバで動作します。
- Call Home に対して最大 5 つの SMTP サーバを設定できます。
- CFS を使用して Call Home コンフィギュレーションを配信すると、デバイス プライオリティと sysContact 名を除く Call Home コンフィギュレーション全体が配信されます。
- CFS がイネーブルになっている混合ファブリック環境では、Cisco NX-OS Release 5.x を実行しているシスコ デバイスは、5.x のコンフィギュレーション (複数の SMTP サーバ サポートおよび HTTP VRF サポート) を、CFS を介してファブリック内の他の 5.x デバイスへ配信できます。ただし、既存のデバイスを 5.x へアップグレードしても、これらの新しいコンフィギュレーションはデバイスへは配信されません。これは、アップグレード時に CFS マージがトリガされないためです。したがって、シスコでは、ファブリック内のすべてのデバイスが新しいコンフィギュレーションをサポートしている場合に限り、新しいコンフィギュレーションを適用するか、または (新しくアップグレードされたデバイスではなく)、新しいコンフィギュレーションを保持している既存の 5.x デバイスから空のコミットを実行することを推奨します。

デフォルト設定

表 6-3 に、Call Home パラメータのデフォルト設定を示します。

表 6-3 デフォルトの Call Home パラメータ

パラメータ	デフォルト
フルテキストフォーマットで送信するメッセージの宛先メッセージサイズ	2,500,000
XML フォーマットで送信するメッセージの宛先メッセージサイズ	2,500,000
ショートテキストフォーマットで送信するメッセージの宛先メッセージサイズ	4000
ポートを指定しなかった場合の SMTP サーバポート	25
プライオリティを指定しなかった場合の SMTP サーバのプライオリティ	50
プロファイルとアラートグループの関連付け	full-text-destination および short-text-destination プロファイルではすべて。CiscoTAC-1 宛先プロファイルでは cisco-tac アラートグループ。
フォーマットタイプ	XML
Call Home のメッセージレベル	0 (ゼロ)

Call Home の設定



(注)

CFS を使用して Call Home コンフィギュレーションを配信する場合は、「[CFS の設定](#)」(P.2-1) を参照してください。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「[コンタクト情報の設定](#)」(P.6-10)
- 「[宛先プロファイルの作成](#)」(P.6-12)
- 「[宛先プロファイルの変更](#)」(P.6-14)
- 「[アラートグループと宛先プロファイルの関連付け](#)」(P.6-16)
- 「[アラートグループへの show コマンドの追加](#)」(P.6-17)
- 「[E メールの設定](#)」(P.6-19)
- 「[HTTP を使用したメッセージ送信のための VRF 設定](#)」(P.6-21)
- 「[定期的なインベントリ通知の設定](#)」(P.6-22)
- 「[重複メッセージスロットリングのディセーブル化](#)」(P.6-23)
- 「[Call Home のイネーブルまたはディセーブル](#)」(P.6-24)
- 「[Call Home 通信のテスト](#)」(P.6-24)



(注) Cisco NX-OS コマンドは Cisco IOS コマンドと異なる場合がありますので注意してください。

次の順序で Call Home 設定を行うことを推奨します。

1. 「コンタクト情報の設定」 (P.6-10)
2. 「宛先プロファイルの作成」 (P.6-12)
3. 「アラート グループと宛先プロファイルの関連付け」 (P.6-16)
4. (任意) 「アラート グループへの show コマンドの追加」 (P.6-17)
5. (任意) 「CFS 設定の作成と配信」 (P.2-20)
6. 「Call Home のイネーブルまたはディセーブル」 (P.6-24)
7. (任意) 「Call Home 通信のテスト」 (P.6-24)

コンタクト情報の設定

Call Home のコンタクト情報を設定できます。

操作の前に

正しい VDC を使用していることを確認します。VDC の変更は **switchto vdc** コマンドを使用します。

手順の概要

1. **config t**
2. **snmp-server contact *sys-contact***
3. **callhome**
4. **email-contact *email-address***
5. **phone-contact *international-phone-number***
6. **streetaddress *address***
7. **contract-id *contract-number***
8. **customer-id *customer-number***
9. **site-id *site-number***
10. **switch-priority *number***
11. **show callhome**
12. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ 1	config t 例： switch# config t Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z. switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	snmp-server contact sys-contact 例： switch(config)# snmp-server contact personname@companyname.com	SNMP sysContact を設定します。
ステップ 3	callhome 例： switch(config)# callhome switch(config-callhome)#	callhome コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	email-contact email-address 例： switch(config-callhome)# email-contact admin@Mycompany.com	デバイスの主要責任者の E メールアドレスを設定します。E メールアドレスのフォーマットで最大 255 文字の英数字を指定できます。 (注) 任意の有効な E メールアドレスを使用できません。スペースは使用できません。
ステップ 5	phone-contact international-phone-number 例： switch(config-callhome)# phone-contact +1-800-123-4567	デバイスの主要責任者の電話番号を国際電話番号のフォーマットで設定します。国際電話のフォーマットで最大 17 文字の英数字を指定できます。 (注) スペースは使用できません。必ず、番号の前に + のプレフィクスを使用します。
ステップ 6	streetaddress address 例： switch(config-callhome)# streetaddress 123 Anystreet st. Anytown,AnyWhere	デバイスの主要責任者の住所を空白の含まれる英数字ストリングとして設定します。スペースを含め、最大 255 文字の英数字を指定できます。
ステップ 7	contract-id contract-number 例： switch(config-callhome)# contract-id Contract5678	(任意) サービス契約に基づいて、このデバイスの契約番号を設定します。契約番号は任意のフォーマットで、最大 255 文字の英数字を使用して指定できます。
ステップ 8	customer-id customer-number 例： switch(config-callhome)# customer-id Customer123456	(任意) サービス契約に基づいて、このデバイスのカスタマー番号を設定します。カスタマー番号は任意のフォーマットで、最大 255 文字の英数字を使用して指定できます。
ステップ 9	site-id site-number 例： switch(config-callhome)# site-id Site1	(任意) このデバイスのサイト番号を設定します。サイト番号は任意のフォーマットで、最大 255 文字の英数字を使用して指定できます。
ステップ 10	switch-priority number 例： switch(config-callhome)# switch-priority 3	(任意) このデバイスのスイッチ プライオリティを設定します。値の範囲は 0 ~ 7 で、0 が最高、7 が最低のプライオリティです。デフォルト値は 7 です。

	コマンド	目的
ステップ 11	show callhome 例: switch(config-callhome)# show callhome	(任意) Call Home コンフィギュレーションの要約を表示します。
ステップ 12	copy running-config startup-config 例: switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) このコンフィギュレーションの変更を保存します。

Call Home のコンタクト情報を設定する例を示します。

```
switch# config t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# snmp-server contact personname@companyname.com
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# email-contact admin@Mycompany.com
switch(config-callhome)# phone-contact +1-800-123-4567
switch(config-callhome)# streetaddress 123 Anystreet st. Anytown,AnyWhere
```

宛先プロファイルの作成

ユーザ定義宛先プロファイルを作成し、メッセージフォーマットを設定できます。

操作の前に

正しい VDC を使用していることを確認します (または **switchto vdc** コマンドを使用します)。

手順の概要

1. **config t**
2. **callhome**
3. **destination-profile name**
4. **destination-profile name format {XML | full-txt | short-txt}**
5. **show callhome destination-profile [profile name]**
6. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ 1	config t 例: switch# config t Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z. switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	callhome 例: switch(config)# callhome switch(config-callhome)#	callhome コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	destination-profile name 例: switch(config-callhome)# destination-profile Noc101	新しい宛先プロファイルを作成します。名前には最大 31 の英数字を使用できます。
ステップ 4	destination-profile name format {XML full-txt short-txt} 例: switch(config-callhome)# destination-profile Noc101 format full-txt	プロファイルのメッセージフォーマットを設定します。名前には最大 31 の英数字を使用できます。
ステップ 5	show callhome destination-profile [profile name] 例: switch(config-callhome)# show callhome destination-profile profile Noc101	(任意) 1 つまたは複数の宛先プロファイルに関する情報を表示します。
ステップ 6	copy running-config startup-config 例: switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) このコンフィギュレーションの変更を保存します。

Call Home の宛先プロファイルを作成する例を示します。

```
switch# config t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# destination-profile Noc101
switch(config-callhome)# destination-profile Noc101 format full-text
```

宛先プロファイルの変更

定義済みの宛先プロファイルまたはユーザ定義の宛先プロファイルでは、次のアトリビュートを変更できます。

- 宛先 E メールアドレス：アラートの送信先となる E メールアドレス。
- 宛先 URL：アラートの送信先となる HTTP または HTTPS URL。
- 転送方式：E メールまたは HTTP 転送によって、使用される宛先アドレスのタイプが決まります。
- メッセージフォーマット：アラートの送信に使用するメッセージフォーマット（フルテキスト、ショートテキスト、または XML）。
- メッセージレベル：この宛先プロファイルに対応する、Call Home メッセージの重大度。
- メッセージサイズ：この宛先プロファイルで宛先アドレスに送信される Call Home メッセージの許容可能な長さ。

宛先プロファイルに対応するアラートグループの設定については、「[アラートグループと宛先プロファイルの関連付け](#)」(P.6-16) を参照してください。

操作の前に

正しい VDC を使用していることを確認します。VDC の変更は `switchto vdc` コマンドを使用します。

手順の概要

1. `config t`
2. `callhome`
3. `destination profile {name | CiscoTAC-1 | full-txt-destination | short-txt-destination} email-addr address`
4. `destination profile {name | CiscoTAC-1 | full-txt-destination | short-txt-destination} http address`
5. `destination profile {name | CiscoTAC-1 | full-txt-destination | short-txt-destination} transport-method {email | http}`
6. `destination profile {name | CiscoTAC-1 | full-txt-destination | short-txt-destination} message-level number`
7. `destination profile {name | CiscoTAC-1 | full-txt-destination | short-txt-destination} message-size number`
8. `show call-home destination-profile [profile name]`
9. `copy running-config startup-config`

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ 1	config t 例： <pre>switch# config t Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z. switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	callhome 例： <pre>switch(config)# callhome switch(config-callhome)#</pre>	callhome コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	destination-profile {name CiscoTAC-1 full-txt-destination short-txt-destination} email-addr address 例： <pre>switch(config-callhome)# destination-profile full-txt-destination email-addr person@place.com</pre>	ユーザ定義または定義済み宛先プロファイル用の E メールアドレスを設定します。 ヒント 1つの宛先プロファイルで最大 50 の E メールアドレスを設定できます。
ステップ 4	destination-profile {name CiscoTAC-1 full-txt-destination short-txt-destination} http address 例： <pre>switch(config-callhome)# destination-profile CiscoTAC-1 http http://site.com/service/callhome</pre>	ユーザ定義または定義済み宛先プロファイルの HTTP または HTTPS URL を設定します。URL の最大文字数は 255 文字です。 (注) このコマンドは、CFS とともに配信されません。解決策として、 commit コマンドの後ろにこのコマンドを入力します。
ステップ 5	destination-profile {name CiscoTAC-1 full-txt-destination short-txt-destination} transport-method {email http} 例： <pre>switch(config-callhome)# destination-profile CiscoTAC-1 http http://site.com/service/callhome</pre>	ユーザ定義または定義済み宛先プロファイルに対応する E メールまたは HTTP 転送方式を設定します。選択する転送方式のタイプによって、そのタイプに設定された宛先アドレスが決まります。 (注) このコマンドは、CFS とともに配信されません。解決策として、 commit コマンドの後ろにこのコマンドを入力します。
ステップ 6	destination-profile {name CiscoTAC-1 full-txt-destination short-txt-destination} message-level number 例： <pre>switch(config-callhome)# destination-profile full-txt-destination message-level 5</pre>	この宛先プロファイルに対応する Call Home メッセージの重大度を設定します。Cisco NX-OS がこのプロファイルの宛先に送信するのは、Call Home の重大度が同じかそれ以上のアラートだけです。値の範囲は 0 ~ 9 です。9 が最高の重大度です。

	コマンド	目的
ステップ 7	<pre>destination-profile {name CiscoTAC-1 full-txt-destination short-txt-destination} message-size number</pre> <p>例:</p> <pre>switch(config-callhome)# destination-profile full-txt-destination message-size 100000</pre>	この宛先プロファイルの最大メッセージサイズを設定します。値の範囲は 0 ~ 5000000 です。デフォルト値は 2500000 です。
ステップ 8	<pre>show callhome destination-profile [profile name]</pre> <p>例:</p> <pre>switch(config-callhome)# show callhome destination-profile profile full-text-destination</pre>	(任意) 1 つまたは複数の宛先プロファイルに関する情報を表示します。
ステップ 9	<pre>copy running-config startup-config</pre> <p>例:</p> <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	(任意) このコンフィギュレーションの変更を保存します。

Call Home の宛先プロファイルを変更する例を示します。

```
switch# config t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# destination-profile full-text-destination email-addr
person@place.com
switch(config-callhome)# destination-profile full-text-destination message-level 5
switch(config-callhome)# destination-profile full-text-destination message-size 10000
```

アラート グループと宛先プロファイルの関連付け

1 つの宛先プロファイルに 1 つまたは複数のアラート グループを関連付けることができます。

操作の前に

正しい VDC を使用していることを確認します。VDC の変更は **switchto vdc** コマンドを使用します。

手順の概要

1. **config t**
2. **callhome**
3. **destination profile {name | CiscoTAC-1 | full-txt-destination | short-txt-destination} alert-group {All | Cisco-TAC | Configuration | Diagnostic | EEM | Environmental | Inventory | License | Linecard-Hardware | Supervisor-Hardware | Syslog-group-port | System | Test}**
4. **show callhome destination-profile [profile name]**
5. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	config t 例： switch# config t Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z. switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	callhome 例： switch(config)# callhome switch(config-callhome)#	callhome コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	destination-profile {name CiscoTAC-1 full-txt-destination short-txt-destination} alert-group {All Cisco-TAC Configuration Diagnostic EEM Environmental Inventory License Linecard-Hardware Supervisor-Hardware Syslog-group-port System Test} 例： switch(config-callhome)# destination-profile Noc101 alert-group All	この宛先プロファイルにアラート グループを関連付けます。すべてのアラート グループを宛先プロファイルに関連付ける場合は、 All キーワードを使用します。
ステップ4	show callhome destination-profile [profile name] 例： switch(config-callhome)# show callhome destination-profile profile Noc101	(任意) 1 つまたは複数の宛先プロファイルに関する情報を表示します。
ステップ5	copy running-config startup-config 例： switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) このコンフィギュレーションの変更を保存します。

宛先プロファイル Noc101 にすべての アラート グループを関連付ける例を示します。

```
switch# config t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# destination-profile Noc101 alert-group All
```

アラート グループへの show コマンドの追加

1 つのアラート グループにユーザ定義の CLI show コマンドを 5 つまで割り当てることができます。



(注) Cisco TAC-1 宛先プロファイルにユーザ定義の CLI show コマンドは追加できません。

操作の前に

正しい VDC を使用していることを確認します。VDC の変更は **switchto vdc** コマンドを使用します。

手順の概要

1. **config t**
2. **callhome**
3. **alert-group {Configuration | Diagnostic | EEM | Environmental | Inventory | License | Linecard-Hardware | Supervisor-Hardware | Syslog-group-port | System | Test} user-def-cmd show-cmd**
4. **show call-home user-def-cmds**
5. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ 1	config t 例: switch# config t Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z. switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	callhome 例: switch(config)# callhome switch(config-callhome)#	callhome コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	alert-group {Configuration Diagnostic EEM Environmental Inventory License Linecard-Hardware Supervisor-Hardware Syslog-group-port System Test} user-def-cmd show-cmd 例: switch(config-callhome)# alert-group Configuration user-def-cmd show ip route	このアラート グループに対して送信されるあらゆる Call Home メッセージに、 show コマンド出力を追加します。使用できるのは、有効な show コマンドだけです。
ステップ 4	show callhome user-def-cmds 例: switch(config-callhome)# show callhome user-def-cmds	(任意) アラート グループに追加されているすべてのユーザ定義 show コマンドに関する情報を表示します。
ステップ 5	copy running-config startup-config 例: switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) このコンフィギュレーションの変更を保存します。

Cisco-TAC アラート グループに **show ip route** コマンドを追加する例を示します。

```
switch# config t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# alert-group Configuration user-def-cmd show ip route
```

E メールの設定

Call Home を機能させるには、SMTP サーバ アドレスを設定する必要があります。送信元および返信先 E メール アドレスも設定できます。

Call Home に対して最大 5 つの SMTP サーバを設定できます。サーバは、プライオリティに基づいて試行されます。最もプライオリティの高いサーバが最初に試行されます。メッセージが送信できない場合、制限に達するまでリスト内の次のサーバが試行されます。2 つのサーバのプライオリティが同じ場合は、先に設定された方が最初に試行されます。

操作の前に

正しい VDC を使用していることを確認します。VDC の変更は **switchto vdc** コマンドを使用します。

手順の概要

1. **config t**
2. **callhome**
3. **transport email mail-server ip-address [port number] [priority number] [use-vrf vrf-name]**
4. **transport email from email-address**
5. **transport email reply-to email-address**
6. **show callhome transport**
7. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ 1	config t 例: <pre>switch# config t Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z. switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	callhome 例: <pre>switch(config)# callhome switch(config-callhome)#</pre>	callhome コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンド	目的
ステップ 3	<pre>transport email mail-server ip-address [port number] [priority number] [use-vrf vrf-name]</pre> <p>例: switch(config-callhome)# transport email mail-server 192.0.2.1 use-vrf Red</p>	<p>Domain Name Server (DNS; ドメイン ネーム サーバ) 名、IPv4 アドレス、または IPv6 アドレスのいずれかとして SMTP サーバを設定します。さらに、任意でポート番号を設定します。ポート範囲は 1 ~ 65535 です。デフォルトのポート番号は 25 です。</p> <p>任意で、SMTP サーバのプライオリティを設定します。プライオリティの範囲は 1 ~ 100 で、1 が最高、100 が最低のプライオリティです。プライオリティを指定しない場合、デフォルト値の 50 が使用されます。</p> <p>さらに任意で、この SMTP サーバとの通信時に使用する VRF を設定します。指定された VRF は、HTTP を使用したメッセージの送信には使用されません。HTTP を使用するには、「HTTP を使用したメッセージ送信のための VRF 設定」(P.6-21) を参照してください。</p> <p>(注) 4.2 以前のリリースを実行しているデバイスに SMTP サーバのコンフィギュレーションを配信するには、transport email smtp-server コマンドを使用する必要があります。これは、1 台の SMTP サーバだけを設定します。</p>
ステップ 4	<pre>transport email from email-address</pre> <p>例: switch(config-callhome)# transport email from person@company.com</p>	(任意) Call Home メッセージ用の email from (E メール送信元) フィールドを設定します。
ステップ 5	<pre>transport email reply-to email-address</pre> <p>例: switch(config-callhome)# transport email reply-to person@company.com</p>	(任意) Call Home メッセージ用の email reply-to (E メール返信先) フィールドを設定します。
ステップ 6	<pre>show callhome transport</pre> <p>例: switch(config-callhome)# show callhome transport</p>	(任意) Call Home に対する転送関係のコンフィギュレーションを表示します。
ステップ 7	<pre>copy running-config startup-config</pre> <p>例: switch(config)# copy running-config startup-config</p>	(任意) このコンフィギュレーションの変更を保存します。

Call Home メッセージの E メール オプションを設定する例を示します。

```
switch# config t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# transport email mail-server 192.0.2.10 use-vrf Red
switch(config-callhome)# transport email from person@company.com
switch(config-callhome)# transport email reply-to person@company.com
```

Call Home メッセージに対して複数の SMTP サーバを設定する例を示します。

```
switch# config t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# transport email mail-server 192.0.2.10 priority 4
switch(config-callhome)# transport email mail-server 172.21.34.193
switch(config-callhome)# transport email smtp-server 10.1.1.174
switch(config-callhome)# transport email mail-server 64.72.101.213 priority 60
switch(config-callhome)# transport email from person@company.com
switch(config-callhome)# transport email reply-to person@company.com
```

上記のコンフィギュレーションに基づいて、SMTP サーバはこの順序で試行されます。

10.1.1.174 (プライオリティ 0)

192.0.2.10 (プライオリティ 4)

172.21.34.193 (プライオリティ 50、デフォルト)

64.72.101.213 (プライオリティ 60)

CFS の配信がイネーブルになっている場合、4.2 以前のリリースを実行しているデバイスは、**transport email smtp-server** コマンドのコンフィギュレーションだけを受け入れますが、5.0(1) 以降のリリースを実行しているデバイスは、**transport email smtp-server** コマンドと **transport email mail-server** コマンドの両方のコンフィギュレーションを受け入れます。



(注) デバイスが **transport email smtp-server** コマンドと **transport email mail-server** コマンドの両方を受け入れると、**transport email smtp-server** コマンドはプライオリティは 0 になり、最高のプライオリティになります。このコマンドで指定されたサーバは最初に試行され、次に、**transport email mail-server** コマンドで指定されたサーバが、プライオリティの順に試行されます。

HTTP を使用したメッセージ送信のための VRF 設定

VRF を使用すると、HTTP で Call Home メッセージを送信できます。HTTP VRF が設定されていない場合は、デフォルトの VRF を使用して HTTP でメッセージが転送されます。

操作の前に

正しい VDC を使用していることを確認します。VDC の変更は **switchto vdc** コマンドを使用します。

手順の概要

1. **config t**
2. **callhome**
3. **transport http use-vrf vrf-name**
4. **show callhome**
5. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ 1	config t 例: switch# config t Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z. switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	callhome 例: switch(config)# callhome switch(config-callhome)#	callhome コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	transport http use-vrf vrf-name 例: switch(config-callhome)# transport http use-vrf Blue	HTTP で電子メールおよび他の Call Home メッセージを送信するための VRF を設定します。
ステップ 4	show callhome 例: switch(config-callhome)# show callhome	(任意) Call Home に関する情報を表示します。
ステップ 5	copy running-config startup-config 例: switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) このコンフィギュレーションの変更を保存します。

HTTP を使用して Call Home メッセージを送信するための VRF を設定する例を示します。

```
switch# config t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# transport http use-vrf Blue
```

定期的なインベントリ通知の設定

デバイス上で現在イネーブルにされて動作しているすべてのソフトウェア サービスのインベントリとともに、ハードウェア インベントリ情報を示すメッセージを定期的送信するように、デバイスを設定できます。Cisco NX-OS は 2 種類の Call Home 通知を生成します。定期的コンフィギュレーションメッセージと定期的インベントリ メッセージです。

操作の前に

正しい VDC を使用していることを確認します。VDC の変更は **switchto vdc** コマンドを使用します。

手順の概要

1. **config t**
2. **callhome**

3. `periodic-inventory notification [interval days | timeofday time]`
4. `show callhome`
5. `copy running-config startup-config`

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>config t</code> 例: switch# <code>config t</code> Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z. switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>callhome</code> 例: switch(config)# <code>callhome</code> switch(config-callhome)#	<code>callhome</code> コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>periodic-inventory notification [interval days] [timeofday time]</code> 例: switch(config-callhome)# <code>periodic-inventory notification interval 20</code>	定期的インベントリ メッセージを設定します。 <code>interval</code> の範囲は 1 ~ 30 日です。デフォルト値は 7 です。 <code>time of day</code> の値は HH:MM の形式です。
ステップ 4	<code>show callhome</code> 例: switch(config-callhome)# <code>show callhome</code>	(任意) Call Home に関する情報を表示します。
ステップ 5	<code>copy running-config startup-config</code> 例: switch(config)# <code>copy running-config startup-config</code>	(任意) このコンフィギュレーションの変更を保存します。

定期的インベントリメッセージが 20 日おきに生成されるように設定する例を示します。

```
switch# config t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# periodic-inventory notification interval 20
```

重複メッセージスロットリングのディセーブル化

同じイベントについて受け取る重複メッセージの数を制限できます。デフォルトでは、Cisco NX-OS は同じイベントについて受け取る重複メッセージの数を制限します。2 時間以内に送信された重複メッセージの数が 30 を超えると、Cisco NX-OS はそのアラート タイプについて、それ以上のメッセージをディセーブルにします。

重複メッセージ スロットリングをディセーブルにするには、Call Home コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
no duplicate-message throttle 例: <pre>switch(config-callhome)# no duplicate-message throttle</pre>	Call Home の重複メッセージ スロットリングをディセーブルにします。デフォルトではイネーブルです。

Call Home のイネーブルまたはディセーブル

コンタクト情報を設定すると、Call Home 機能をイネーブルにできます。

Call Home をイネーブルにするには、Call Home コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
enable 例: <pre>switch(config-callhome)# enable</pre>	Call Home をイネーブルにします。デフォルトではディセーブルです。

Call Home をディセーブルにするには、Call Home コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
no enable 例: <pre>switch(config-callhome)# no enable</pre>	Call Home をディセーブルにします。デフォルトではディセーブルです。

Call Home 通信のテスト

Call Home 通信をテストするために、テストメッセージを作成できます。

テスト用の Call Home メッセージを作成するには、任意のモードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
callhome send [configuration diagnostic] 例: <pre>switch(config-callhome)# callhome send diagnostic</pre>	設定されているすべての宛先に、指定の Call Home テストメッセージを送信します。
callhome test 例: <pre>switch(config-callhome)# callhome test</pre>	設定されているすべての宛先に、テストメッセージを送信します。

Call Home コンフィギュレーションの確認

Call Home のコンフィギュレーション情報を表示するには、次の作業のいずれかを行います。

コマンド	目的
<code>show callhome</code>	Call Home のコンフィギュレーションを表示します。
<code>show callhome destination-profile <i>name</i></code>	1 つまたは複数の Call Home の宛先プロファイルを表示します。
<code>show callhome merge</code>	Call Home の最後の CFS マージ処理のステータスを表示します。
<code>show callhome pending</code>	保留 CFS データベースの Call Home コンフィギュレーションの変更を表示します。
<code>show callhome pending-diff</code>	Call Home の保留中のコンフィギュレーションと実行コンフィギュレーションの違いを表示します。
<code>show callhome session status</code>	最後の CFS コミットまたは打ち切り操作のステータスを表示します。
<code>show callhome status</code>	Call Home の CFS 配信状態（イネーブルまたはディセーブル）を表示します。
<code>show callhome transport</code>	Call Home に対する転送関係のコンフィギュレーションを表示します。
<code>show callhome user-def-cmds</code>	アラート グループに追加されている CLI コマンドを表示します。
<code>show running-config callhome [all]</code>	Call Home の実行コンフィギュレーションを表示します。
<code>show startup-config callhome</code>	Call Home のスタートアップ コンフィギュレーションを表示します。
<code>show tech-support callhome</code>	Call Home に関するテクニカル サポート出力を表示します。

Call Home のコンフィギュレーション例

Noc101 という宛先プロファイルを作成し、コンフィギュレーションのアラートグループをこのプロファイルに関連付けて、コンタクト情報と電子メールの情報を設定した後で、HTTP を介して Call Home メッセージを送信するための VRF を指定する例を示します。

```
config t
snmp-server contact person@company.com
callhome
  distribute
  email-contact admin@Mycompany.com
  phone-contact +1-800-123-4567
  streetaddress 123 Anystreet st. Anytown,AnyWhere
  destination-profile Noc101 format full-txt
  destination-profile full-text-destination email-addr person@company.com
  destination-profile full-text-destination message-level 5
  destination-profile Noc101 alert-group Configuration
  alert-group Configuration user-def-cmd show ip route
  transport email mail-server 192.0.2.10 priority 1
  transport http use-vrf Blue
commit
enable
```

その他の関連資料

Call Home の実装に関連する詳細情報については、次の項を参照してください。

- 「イベント トリガー」 (P.6-26)
- 「メッセージフォーマット」 (P.6-28)
- 「syslog アラート通知の例 (フルテキストフォーマット)」 (P.6-31)
- 「syslog アラート通知の例 (XML フォーマット)」 (P.6-34)
- 「関連資料」 (P.6-38)
- 「規格」 (P.6-38)
- 「MIB」 (P.6-38)

イベント トリガー

表 6-4 に、イベント トリガーおよび対応する Call Home メッセージの重大度を示します。

表 6-4 イベント トリガー

アラートグループ	イベント名	説明	Call Home の重大度
Configuration	PERIODIC_CONFIGURATION	定期的コンフィギュレーションアップデートメッセージ	2
Diagnostic	DIAGNOSTIC_MAJOR_ALERT	GOLD が生成したメジャーアラート	7
	DIAGNOSTIC_MINOR_ALERT	GOLD が生成したマイナーアラート	4
	DIAGNOSTIC_NORMAL_ALERT	Call Home が生成した通常の診断アラート	2

表 6-4 イベントトリガー (続き)

アラートグループ	イベント名	説明	Call Home の重大度
Environmental および CISCO_TAC	FAN_FAILURE	冷却ファンの故障	5
	POWER_SUPPLY_ALERT	電源モジュールに関する警告の発生	6
	POWER_SUPPLY_FAILURE	電源モジュールの故障	6
	POWER_SUPPLY_SHUTDOWN	電源モジュールのシャットダウン	6
	TEMPERATURE_ALARM	温度センサの障害	6
	TEMPERATURE_MAJOR_ALARM	温度が動作メジャーしきい値を超えたことを示す温度センサの表示	6
	TEMPERATURE_MINOR_ALARM	温度が動作マイナーしきい値を超えたことを示す温度センサの表示	4
Inventory および CISCO_TAC	COLD_BOOT	スイッチの起動およびリセットによるコールドブートシーケンス	2
	HARDWARE_INSERTION	シャーシへの新しいハードウェア コンポーネントの追加	2
	HARDWARE_REMOVAL	シャーシからのハードウェアの取り外し	2
	PERIODIC_INVENTORY	定期的インベントリ メッセージの作成	2
License	LICENSE_VIOLATION	使用中の機能にライセンスがなく、猶予期間を経てオフになった場合	6
Line module Hardware および CISCO_TAC	LINEmodule_FAILURE	モジュールの動作障害	7
Supervisor Hardware および CISCO_TAC	CMP_FAILURE	CMP モジュールの動作障害	5
	SUP_FAILURE	スーパーバイザ モジュールの動作障害	7
Syslog-group- port	PORT_FAILURE	ポート ファシリティに対応する syslog メッセージの生成	6
	SYSLOG_ALERT	syslog アラート メッセージの生成	5
System および CISCO_TAC	SW_CRASH	ステートレス リスタートによるソフトウェア プロセス障害、つまりサービスの停止 スーパーバイザ モジュールおよびラインカードでのプロセスクラッシュに対するメッセージの送信	5
	SW_SYSTEM_INCONSISTENT	ソフトウェアまたはファイル システムにおける不整合の検出	5
Test および CISCO_TAC	TEST	ユーザが作成したテストの発生	2

メッセージ フォーマット

Call Home がサポートするメッセージ フォーマットは、次のとおりです。

- ・「[ショート テキスト メッセージ フォーマット](#)」
- ・「[すべてのフル テキストおよび XML メッセージに共通するフィールド](#)」
- ・「[フル テキストおよび XML メッセージのアラート グループ メッセージに固有のフィールド](#)」
- ・「[対応型および予防型イベント メッセージに挿入されるフィールド](#)」
- ・「[インベントリ イベント メッセージに挿入されるフィールド](#)」
- ・「[ユーザが作成したテスト メッセージに挿入されるフィールド](#)」

表 6-5 で、すべてのメッセージ タイプに共通するショート テキスト フォーマット オプションについて説明します。

表 6-5 ショート テキスト メッセージ フォーマット

データ項目	説明
Device identification	設定されているデバイス名
Date/time stamp	トリガー イベントのタイムスタンプ
Error isolation message	トリガー イベントの英語による簡単な説明
Alarm urgency level	システム メッセージに適用されるようなエラー レベル

表 6-6 で、フル テキストまたは XML メッセージに共通するイベント メッセージ フィールドの最初のセットについて説明します。

表 6-6 すべてのフル テキストおよび XML メッセージに共通するフィールド

データ項目 (プレーン テキスト および XML)	説明 (プレーン テキストおよび XML)	XML タグ (XML のみ)
Time stamp	ISO の時刻表記で表した日付およびタイムスタンプ <i>YYYY-MM-DD HH:MM:SS GMT+HH:MM</i>	/aml/header/time
Message name	メッセージ名。具体的なイベント名については表 6-4 を参照	/aml/header/name
Message type	reactive (対応型)、proactive (予防型) などのメッセージ タイプの 名前	/aml/header/type
Message group	syslog など、アラート グループの名前	/aml/header/group
Severity level	メッセージの重大度 (「 Call Home のメッセージ緊急度 」(P.6-5) を 参照)	/aml/header/level
Source ID	ルーティング製品タイプ (Catalyst 6500 シリーズ スイッチなど)	/aml/header/source

表 6-6 すべてのフル テキストおよび XML メッセージに共通するフィールド (続き)

データ項目 (プレーン テキスト および XML)	説明 (プレーン テキストおよび XML)	XML タグ (XML のみ)
Device ID	<p>メッセージを生成したエンド デバイスの固有デバイス識別情報 (UDI)。メッセージがデバイス固有ではない場合は、このフィールドを空にしておきます。フォーマットは <i>type@Sid@serial</i> です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>type</i> はバックプレーン IDPROM から取得した製品モデル番号です。 • <i>@</i> は区切り文字です。 • <i>Sid</i> は C で、シリアル ID をシャーシ シリアル 番号として特定します。 • <i>serial</i> は、Sid フィールドで特定された番号です。 <p>例 : WS-C6509@C@12345678</p>	/aml/ header/deviceId
Customer ID	サポート サービスの契約情報またはその他の ID に任意で使用する、ユーザ側で設定可能なフィールド	/aml/ header/customerID
Contract ID	サポート サービスの契約情報またはその他の ID に任意で使用する、ユーザ側で設定可能なフィールド	/aml/ header /contractId
Site ID	シスコが指定したサイト ID またはその他、代替サポート サービスで意味のあるデータに使用する、ユーザ側で設定可能なフィールド	/aml/ header/siteId
Server ID	<p>デバイスから発生するメッセージの場合、これはデバイスの UDI です。フォーマットは <i>type@Sid@serial</i> です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>type</i> はバックプレーン IDPROM から取得した製品モデル番号です。 • <i>@</i> は区切り文字です。 • <i>Sid</i> は C で、シリアル ID をシャーシ シリアル 番号として特定します。 • <i>serial</i> は、Sid フィールドで特定された番号です。 <p>例 : WS-C6509@C@12345678</p>	/aml/header/serverId
Message description	エラーを記述するショート テキスト	/aml/body/msgDesc
Device name	イベントが発生したノード (デバイスのホスト名)	/aml/body/sysName
Contact name	イベントが発生したノードに関連する問題の連絡となる担当者名	/aml/body/sysContact
Contact e-mail	この装置の連絡先として指定された担当者の E メール アドレス	/aml/body/sysContactEmail
Contact phone number	この装置の連絡先として指定された担当者の電話番号	/aml/body/sysContactPhoneNumber
Street address	この装置に関連する RMA 部品の出荷先住所を任意で指定するフィールド	/aml/body/sysStreetAddress
Model name	デバイスのモデル名 (製品ファミリ名の一部としての特定モデル)	/aml/body/chassis/name
Serial number	装置のシャーシ シリアル番号	/aml/body/chassis/serialNo
Chassis part number	シャーシ上部のアセンブリ番号	/aml/body/chassis/partNo

■ その他の関連資料

表 6-7 に、フルテキストおよび XML に対するアラート グループ メッセージに固有のフィールドを示します。1 つのアラート グループに対して複数の CLI コマンドが実行される場合は、これらのフィールドが繰り返されることがあります。

表 6-7 フルテキストおよび XML メッセージのアラート グループ メッセージに固有のフィールド

データ項目 (プレーンテキスト および XML)	説明 (プレーンテキストおよび XML)	XML タグ (XML のみ)
Command output name	発行された CLI コマンドの正確な名前	/aml/attachments/attachment/name
Attachment type	特定のコマンド出力	/aml/attachments/attachment/type
MIME type	プレーンテキストまたは符号化タイプのどちらか。	/aml/attachments/attachment/mime
Command output text	自動的に実行されたコマンドの出力（「Call Home のアラート グループ」(P.6-3) を参照）	/aml/attachments/attachment/attachment

表 6-8 で、フルテキストまたは XML に対応する、対応型および予防型イベント メッセージ フォーマットについて説明します。

表 6-8 対応型および予防型イベント メッセージに挿入されるフィールド

データ項目 (プレーンテキスト および XML)	説明 (プレーンテキストおよび XML)	XML タグ (XML のみ)
Chassis hardware version	シャーシのハードウェアバージョン	/aml/body/chassis/hwVersion
Supervisor module software version	上位レベルのソフトウェアバージョン	/aml/body/chassis/swVersion
Affected FRU name	イベントメッセージを生成している関連 FRU 名	/aml/body/fru/name
Affected FRU serial number	関連 FRU のシリアル番号	/aml/body/fru/serialNo
Affected FRU part number	関連 FRU の部品番号	/aml/body/fru/partNo
FRU slot	イベントメッセージを生成している FRU のスロット番号	/aml/body/fru/slot
FRU hardware version	関連 FRU のハードウェアバージョン	/aml/body/fru/hwVersion
FRU software version	関連 FRU 上で動作しているソフトウェアバージョン（複数可）	/aml/body/fru/swVersion

表 6-9 で、フルテキストまたは XML に対応する、インベントリ イベントメッセージ フォーマットについて説明します。

表 6-9 インベントリ イベント メッセージに挿入されるフィールド

データ項目 (プレーン テキスト および XML)	説明 (プレーン テキストおよび XML)	XML タグ (XML のみ)
Chassis hardware version	シャーシのハードウェア バージョン	/aml/body/chassis/hwVersion
Supervisor module software version	上位レベルのソフトウェア バージョン	/aml/body/chassis/swVersion
FRU name	イベント メッセージを生成している 関連 FRU 名	/aml/body/fru/name
FRU s/n	FRU のシリアル番号	/aml/body/fru/serialNo
FRU part number	FRU の部品番号	/aml/body/fru/partNo
FRU slot	FRU のスロット番号	/aml/body/fru/slot
FRU hardware version	FRU のハードウェア バージョン	/aml/body/fru/hwVersion
FRU software version	FRU 上で動作しているソフトウェア バージョン (複数可)	/aml/body/fru/swVersion

表 6-10 で、フル テキストまたは XML に対応する、ユーザ作成テスト メッセージのフォーマットについて説明します。

表 6-10 ユーザが作成したテスト メッセージに挿入されるフィールド

データ項目 (プレーン テキスト および XML)	説明 (プレーン テキストおよび XML)	XML タグ (XML のみ)
Process ID	固有のプロセス ID	/aml/body/process/id
Process state	プロセスの状態 (running (実行中)、halted (停止) など)	/aml/body/process/processState
Process exception	例外または原因コード	/aml/body/process/exception

syslog アラート通知の例 (フル テキスト フォーマット)

フル テキスト フォーマットを使用した syslog port アラート グループ通知の例を示します。

```
Severity Level:5
Series:Nexus7000
Switch Priority:0
Device Id:N7K-C7010@C@TXX12345678
Server Id:N7K-C7010@C@TXX12345678
Time of Event:2008-01-17 16:31:33 GMT+0000 Message Name:
Message Type:syslog
System Name:dc3-test
Contact Name:Jay Tester
Contact Email:contact@example.com
Contact Phone:+91-80-1234-5678
Street Address:#1 Any Street
```

```

Event Description:SYSLOG_ALERT 2008 Jan 17 16:31:33 dc3-test %ETHPORT-2-IF_SEQ_ERROR:
Error (0x20) while communicating with component MTS_SAP_ELTM
opcode:MTS_OPC_ETHPM_PORT_PHY_CLEANUP (for:RID_PORT: Ethernet3/1)

syslog_facility:ETHPORT
start chassis information:
Affected Chassis:N7K-C7010
Affected Chassis Serial Number:TXX12345678 Affected Chassis Hardware Version:0.405
Affected Chassis Software Version:4.1(1) Affected Chassis Part No:73-10900-04 end chassis
information:
start attachment
  name:show logging logfile | tail -n 200
  type:text
  data:
    2008 Jan 17 10:57:51 dc3-test %SYSLOG-1-SYSTEM_MSG : Logging logfile (messages)
cleared by user
  2008 Jan 17 10:57:53 dc3-test %VSHD-5-VSHD_SYSLOG_CONFIG_I: Configuring console from
/dev/ttyS0 /dev/ttyS0_console
  2008 Jan 17 10:58:35 dc3-test %VSHD-5-VSHD_SYSLOG_CONFIG_I: Configuring console from
/dev/ttyS0 /dev/ttyS0_console
  2008 Jan 17 10:59:00 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: error: setsockopt IP_TOS 16:
Invalid argument: - sshd[14484]
  2008 Jan 17 10:59:05 dc3-test %VSHD-5-VSHD_SYSLOG_CONFIG_I: Configuring console from
/dev/ttyS0 /dev/ttyS0_console
  2008 Jan 17 12:11:18 dc3-test %SYSMGR-STANDBY-5-SUBPROC_TERMINATED: "System Manager
(gsync controller)" (PID 12000) has finished with error code
SYSMGR_EXITCODE_GSYNCFIILED_NONFATAL (12).
  2008 Jan 17 16:28:03 dc3-test %VSHD-5-VSHD_SYSLOG_CONFIG_I: Configuring console from
/dev/ttyS0 /dev/ttyS0_console
  2008 Jan 17 16:28:44 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2579 with message
Core not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero .
  2008 Jan 17 16:28:44 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service "eltm" (PID 3504)
hasn't caught signal 9 (no core).
  2008 Jan 17 16:29:08 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2579 with message
Core not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero.
  2008 Jan 17 16:29:08 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service "eltm" (PID 23210)
hasn't caught signal 9 (no core).
  2008 Jan 17 16:29:17 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2579 with message
Core not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero.
  2008 Jan 17 16:29:17 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service "eltm" (PID 23294)
hasn't caught signal 9 (no core).
  2008 Jan 17 16:29:25 dc3-test %SYSMGR-2-HASWITCHOVER_PRE_START: This supervisor is
becoming active (pre-start phase).
  2008 Jan 17 16:29:25 dc3-test %SYSMGR-2-HASWITCHOVER_START: This supervisor is
becoming active.
  2008 Jan 17 16:29:26 dc3-test %USER-3-SYSTEM_MSG: crdcfg_get_srvinfom: mts_send failed
- device_test
  2008 Jan 17 16:29:27 dc3-test %NETSTACK-3-IP_UNK_MSG_MAJOR: netstack [4336]
Unrecognized message from MRIB. Major type 1807
  2008 Jan 17 16:29:27 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is DOWN in vdc 1
  2008 Jan 17 16:29:27 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is DOWN in vdc 2
  2008 Jan 17 16:29:27 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is DOWN in vdc 3
  2008 Jan 17 16:29:27 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is DOWN in vdc 4
  2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %SYSMGR-2-SWITCHOVER_OVER: Switchover completed.
  2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:socket family : 2 -
ntpd[19045]
  2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:socket family : 10 -
ntpd[19045]
  2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:ipv6 only defined -
ntpd[19045]
  2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:bindv6 only defined -
ntpd[19045]
  2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:socket family : 2 -
ntpd[19045]

```



```

2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:socket family : 0 -
ntpd[19045]
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:socket family : 0 -
ntpd[19045]
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %NETSTACK-3-CLIENT_GET: netstack [4336] HA client
filter recovery failed (0)
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %NETSTACK-3-CLIENT_GET: netstack [4336] HA client
filter recovery failed (0)
2008 Jan 17 16:29:29 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ssh disabled, removing -
dcos-xinetd[19072]
2008 Jan 17 16:29:29 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: Telnet disabled, removing -
dcos-xinetd[19072]
2008 Jan 17 16:29:31 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: Telnet disabled, removing -
dcos-xinetd[19073]
2008 Jan 17 16:29:32 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ssh disabled, removing -
dcos-xinetd[19079]
2008 Jan 17 16:29:32 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: Telnet disabled, removing -
dcos-xinetd[19079]
2008 Jan 17 16:29:34 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is UP in vdc 1
2008 Jan 17 16:29:34 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is UP in vdc 2
2008 Jan 17 16:29:34 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is UP in vdc 3
2008 Jan 17 16:29:34 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is UP in vdc 4
2008 Jan 17 16:29:34 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ssh disabled, removing -
dcos-xinetd[19105]
2008 Jan 17 16:29:34 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: Telnet disabled, removing -
dcos-xinetd[19105]
2008 Jan 17 16:29:35 dc3-test %PLATFORM-2-PS_AC_IN_MISSING: Power supply 2 present but
all AC inputs are not connected, ac-redundancy might be affected
2008 Jan 17 16:29:35 dc3-test %PLATFORM-2-PS_AC_IN_MISSING: Power supply 3 present but
all AC inputs are not connected, ac-redundancy might be affected
2008 Jan 17 16:29:38 dc3-test %CALLHOME-2-EVENT: SUP_FAILURE
2008 Jan 17 16:29:46 dc3-test vsh[19166]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
<more> return code <14>
2008 Jan 17 16:30:24 dc3-test vsh[23810]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
<more> return code <14>
2008 Jan 17 16:30:24 dc3-test vsh[23803]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
<more> return code <14>
2008 Jan 17 16:30:24 dc3-test vsh[23818]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
<more> return code <14>
2008 Jan 17 16:30:47 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2630 with message
Core not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero .
2008 Jan 17 16:30:47 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service "eltm" (PID 4820)
hasn't caught signal 9 (no core).
2008 Jan 17 16:31:02 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2630 with message
Core not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero .
2008 Jan 17 16:31:02 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service "eltm" (PID 24239)
hasn't caught signal 9 (no core).
2008 Jan 17 16:31:14 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2630 with message
Core not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero .
2008 Jan 17 16:31:14 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service "eltm" (PID 24401)
hasn't caught signal 9 (no core).
2008 Jan 17 16:31:23 dc3-test %CALLHOME-2-EVENT: SW_CRASH alert for service: eltm
2008 Jan 17 16:31:23 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2630 with message
Core not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero .
2008 Jan 17 16:31:23 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service "eltm" (PID 24407)
hasn't caught signal 9 (no core).
2008 Jan 17 16:31:24 dc3-test vsh[24532]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
<more> return code <14>
2008 Jan 17 16:31:24 dc3-test vsh[24548]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
<more> return code <14>
2008 Jan 17 16:31:24 dc3-test vsh[24535]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
<more> return code <14>
2008 Jan 17 16:31:33 dc3-test %NETSTACK-3-INTERNAL_ERROR: netstack [4336] (null)

```

```

2008 Jan 17 16:31:33 dc3-test %ETHPORT-2-IF_SEQ_ERROR: Error (0x20) while
communicating with component MTS_SAP_ELTM opcode:MTS_OPC_ETHPM_PORT_PHY_CLEANUP
(for:RID_PORT: Ethernet3/1) end attachment start attachment
  name:show vdc membership
  type:text
  data:

vdc_id: 1 vdc_name: dc3-test interfaces:
  Ethernet3/1      Ethernet3/2      Ethernet3/3
  Ethernet3/4      Ethernet3/5      Ethernet3/6
  Ethernet3/7      Ethernet3/8      Ethernet3/9
  Ethernet3/10     Ethernet3/11     Ethernet3/12
  Ethernet3/13     Ethernet3/14     Ethernet3/15
  Ethernet3/16     Ethernet3/17     Ethernet3/18
  Ethernet3/19     Ethernet3/20     Ethernet3/21
  Ethernet3/22     Ethernet3/23     Ethernet3/24
  Ethernet3/25     Ethernet3/26     Ethernet3/27
  Ethernet3/28     Ethernet3/29     Ethernet3/30
  Ethernet3/31     Ethernet3/32     Ethernet3/33
  Ethernet3/34     Ethernet3/35     Ethernet3/36
  Ethernet3/37     Ethernet3/38     Ethernet3/39
  Ethernet3/40     Ethernet3/41     Ethernet3/42
  Ethernet3/43     Ethernet3/44     Ethernet3/45
  Ethernet3/46     Ethernet3/47     Ethernet3/48

vdc_id: 2 vdc_name: dc3-aaa interfaces:

vdc_id: 3 vdc_name: dc3-rbac interfaces:

vdc_id: 4 vdc_name: dc3-call interfaces:

end attachment
start attachment
  name:show vdc current-vdc
  type:text
  data:
  Current vdc is 1 - dc3-test
end attachment
start attachment
  name:show license usage
  type:text
  data:
  Feature                               Ins Lic  Status Expiry Date Comments
                                     Count
-----
LAN_ADVANCED_SERVICES_PKG              Yes  -   In use Never      -
LAN_ENTERPRISE_SERVICES_PKG             Yes  -   Unused Never      -
-----
end attachment

```

syslog アラート通知の例 (XML フォーマット)

XML フォーマットを使用した syslog port アラート グループ通知の例を示します。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<soap-env:Envelope xmlns:soap-env="http://www.w3.org/2003/05/soap-envelope">
<soap-env:Header>

```

```

<aml-session:Session xmlns:aml-session="http://www.cisco.com/2004/01/aml-session"
soap-env:mustUnderstand="true"
soap-env:role="http://www.w3.org/2003/05/soap-envelope/role/next">
<aml-session:To>http://tools.cisco.com/neddce/services/DDCEService</aml-session:To>
<aml-session:Path>
<aml-session:Via>http://www.cisco.com/appliance/uri</aml-session:Via>
</aml-session:Path>
<aml-session:From>http://www.cisco.com/appliance/uri</aml-session:From>
<aml-session:MessageId>1004:TXX12345678:478F82E6</aml-session:MessageId>
</aml-session:Session>
</soap-env:Header>
<soap-env:Body>
<aml-block:Block xmlns:aml-block="http://www.cisco.com/2004/01/aml-block">
<aml-block:Header>
<aml-block:Type>http://www.cisco.com/2005/05/callhome/syslog</aml-block:Type>
<aml-block:CreationDate>2008-01-17 16:31:33 GMT+0000</aml-block:CreationDate>
<aml-block:Builder> <aml-block:Name>DC3</aml-block:Name>
<aml-block:Version>4.1</aml-block:Version>
</aml-block:Builder>
<aml-block:BlockGroup>
<aml-block:GroupId>1005:TXX12345678:478F82E6</aml-block:GroupId>
<aml-block:Number>0</aml-block:Number>
<aml-block:IsLast>true</aml-block:IsLast>
<aml-block:IsPrimary>true</aml-block:IsPrimary>
<aml-block:WaitForPrimary>>false</aml-block:WaitForPrimary>
</aml-block:BlockGroup>
<aml-block:Severity>5</aml-block:Severity>
</aml-block:Header>
<aml-block:Content>
<ch:CallHome xmlns:ch="http://www.cisco.com/2005/05/callhome" version="1.0">
<ch:EventTime>2008-01-17 16:31:33 GMT+0000</ch:EventTime>
<ch:MessageDescription>SYSLOG_ALERT 2008 Jan 17 16:31:33 dc3-test %ETHPORT-2-IF_SEQ_ERROR:
Error (0x20) while communicating with component MTS_SAP_ELTM
opcode:MTS OPC_ETHPM_PORT_PHY_CLEANUP (for:RID_PORT: Ethernet3/1) </ch:MessageDescription>
<ch:Event> <ch:Type>syslog</ch:Type> <ch:SubType></ch:SubType> <ch:Brand>Cisco</ch:Brand>
<ch:Series>Nexus7000</ch:Series> </ch:Event> <ch:CustomerData> <ch:UserData>
<ch:Email>contact@example.com</ch:Email>
</ch:UserData>
<ch:ContractData>
<ch:DeviceId>N7K-C7010@C@TXX12345678</ch:DeviceId>
</ch:ContractData>
<ch:SystemInfo>
<ch:Name>dc3-test</ch:Name>
<ch:Contact>Jay Tester</ch:Contact> <ch:ContactEmail>contact@example.com</ch:ContactEmail>
<ch:ContactPhoneNumber>+91-80-1234-5678</ch:ContactPhoneNumber>
<ch:StreetAddress>#1, Any Street</ch:StreetAddress> </ch:SystemInfo> </ch:CustomerData>
<ch:Device> <rme:Chassis xmlns:rme="http://www.cisco.com/rme/4.1">
<rme:Model>N7K-C7010</rme:Model>
<rme:HardwareVersion>0.405</rme:HardwareVersion>
<rme:SerialNumber>TXX12345678</rme:SerialNumber>
</rme:Chassis>
</ch:Device>
</ch:CallHome>
</aml-block:Content>
<aml-block:Attachments>
<aml-block:Attachment type="inline">
<aml-block:Name>show logging logfile | tail -n 200</aml-block:Name> <aml-block:Data
encoding="plain">
<![CDATA[2008 Jan 17 10:57:51 dc3-test %SYSLOG-1-SYSTEM_MSG : Logging logfile (messages)
cleared by user
2008 Jan 17 10:57:53 dc3-test %VSHD-5-VSHD_SYSLOG_CONFIG_I: Configuring console from
/dev/ttyS0 /dev/ttyS0_console
2008 Jan 17 10:58:35 dc3-test %VSHD-5-VSHD_SYSLOG_CONFIG_I: Configuring console from
/dev/ttyS0 /dev/ttyS0_console
]]>

```

```

2008 Jan 17 10:59:00 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: error: setsockopt IP_TOS 16: Invalid
argument: - sshd[14484]
2008 Jan 17 10:59:05 dc3-test %VSHD-5-VSHD_SYSLOG_CONFIG_I: Configuring console from
/dev/ttyS0 /dev/ttyS0_console
2008 Jan 17 12:11:18 dc3-test %SYSMGR-STANDBY-5-SUBPROC_TERMINATED: \"System Manager
(gsync controller)\" (PID 12000) has finished with error code
SYSMGR_EXITCODE_GSYNCFAILED_NONFATAL (12).
2008 Jan 17 16:28:03 dc3-test %VSHD-5-VSHD_SYSLOG_CONFIG_I: Configuring console from
/dev/ttyS0 /dev/ttyS0_console
2008 Jan 17 16:28:44 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2579 with message Core
not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero .
2008 Jan 17 16:28:44 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service \"eltm\" (PID 3504)
hasn&apos;t caught signal 9 (no core).
2008 Jan 17 16:29:08 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2579 with message Core
not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero .
2008 Jan 17 16:29:08 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service \"eltm\" (PID 23210)
hasn&apos;t caught signal 9 (no core).
2008 Jan 17 16:29:17 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2579 with message Core
not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero .
2008 Jan 17 16:29:17 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service \"eltm\" (PID 23294)
hasn&apos;t caught signal 9 (no core).
2008 Jan 17 16:29:25 dc3-test %SYSMGR-2-HASWITCHOVER_PRE_START: This supervisor is
becoming active (pre-start phase).
2008 Jan 17 16:29:25 dc3-test %SYSMGR-2-HASWITCHOVER_START: This supervisor is becoming
active.
2008 Jan 17 16:29:26 dc3-test %USER-3-SYSTEM_MSG: crdcfg_get_srvinfo: mts_send failed -
device_test
2008 Jan 17 16:29:27 dc3-test %NETSTACK-3-IP_UNK_MSG_MAJOR: netstack [4336] Unrecognized
message from MRIB. Major type 1807
2008 Jan 17 16:29:27 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is DOWN in vdc 1
2008 Jan 17 16:29:27 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is DOWN in vdc 2
2008 Jan 17 16:29:27 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is DOWN in vdc 3
2008 Jan 17 16:29:27 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is DOWN in vdc 4
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %SYSMGR-2-SWITCHOVER_OVER: Switchover completed.
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:socket family : 2 - ntpd[19045]
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:socket family : 10 - ntpd[19045]
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:ipv6 only defined - ntpd[19045]
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:bindv6 only defined - ntpd[19045]
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:socket family : 2 - ntpd[19045]
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:socket family : 0 - ntpd[19045]
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ntp:socket family : 0 - ntpd[19045]
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %NETSTACK-3-CLIENT_GET: netstack [4336] HA client filter
recovery failed (0)
2008 Jan 17 16:29:28 dc3-test %NETSTACK-3-CLIENT_GET: netstack [4336] HA client filter
recovery failed (0)
2008 Jan 17 16:29:29 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ssh disabled, removing -
dcos-xinetd[19072]
2008 Jan 17 16:29:29 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: Telnet disabled, removing -
dcos-xinetd[19072]
2008 Jan 17 16:29:31 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: Telnet disabled, removing -
dcos-xinetd[19073]
2008 Jan 17 16:29:32 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ssh disabled, removing -
dcos-xinetd[19079]
2008 Jan 17 16:29:32 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: Telnet disabled, removing -
dcos-xinetd[19079]
2008 Jan 17 16:29:34 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is UP in vdc 1
2008 Jan 17 16:29:34 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is UP in vdc 2
2008 Jan 17 16:29:34 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is UP in vdc 3
2008 Jan 17 16:29:34 dc3-test %IM-5-IM_INTF_STATE: mgmt0 is UP in vdc 4
2008 Jan 17 16:29:34 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: ssh disabled, removing -
dcos-xinetd[19105]
2008 Jan 17 16:29:34 dc3-test %DAEMON-3-SYSTEM_MSG: Telnet disabled, removing -
dcos-xinetd[19105]

```

```

2008 Jan 17 16:29:35 dc3-test %PLATFORM-2-PS_AC_IN_MISSING: Power supply 2 present but all
AC inputs are not connected, ac-redundancy might be affected
2008 Jan 17 16:29:35 dc3-test %PLATFORM-2-PS_AC_IN_MISSING: Power supply 3 present but all
AC inputs are not connected, ac-redundancy might be affected
2008 Jan 17 16:29:38 dc3-test %CALLHOME-2-EVENT: SUP_FAILURE
2008 Jan 17 16:29:46 dc3-test vsh[19166]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
&lt;more&gt; return code &lt;14&gt;
2008 Jan 17 16:30:24 dc3-test vsh[23810]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
&lt;more&gt; return code &lt;14&gt;
2008 Jan 17 16:30:24 dc3-test vsh[23803]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
&lt;more&gt; return code &lt;14&gt;
2008 Jan 17 16:30:24 dc3-test vsh[23818]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
&lt;more&gt; return code &lt;14&gt;
2008 Jan 17 16:30:47 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2630 with message Core
not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero .
2008 Jan 17 16:30:47 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service \"eltm\" (PID 4820)
hasn&apos;t caught signal 9 (no core).
2008 Jan 17 16:31:02 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2630 with message Core
not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero .
2008 Jan 17 16:31:02 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service \"eltm\" (PID 24239)
hasn&apos;t caught signal 9 (no core).
2008 Jan 17 16:31:14 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2630 with message Core
not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero .
2008 Jan 17 16:31:14 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service \"eltm\" (PID 24401)
hasn&apos;t caught signal 9 (no core).
2008 Jan 17 16:31:23 dc3-test %CALLHOME-2-EVENT: SW_CRASH alert for service: eltm
2008 Jan 17 16:31:23 dc3-test %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: core_copy: PID 2630 with message Core
not generated by system for eltm(0). WCOREDUMP(9) returned zero .
2008 Jan 17 16:31:23 dc3-test %SYSMGR-2-SERVICE_CRASHED: Service \"eltm\" (PID 24407)
hasn&apos;t caught signal 9 (no core).
2008 Jan 17 16:31:24 dc3-test vsh[24532]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
&lt;more&gt; return code &lt;14&gt;
2008 Jan 17 16:31:24 dc3-test vsh[24548]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
&lt;more&gt; return code &lt;14&gt;
2008 Jan 17 16:31:24 dc3-test vsh[24535]: CLIC-3-FAILED_EXEC: Can not exec command
&lt;more&gt; return code &lt;14&gt;
2008 Jan 17 16:31:33 dc3-test %NETSTACK-3-INTERNAL_ERROR: netstack [4336] (null)
2008 Jan 17 16:31:33 dc3-test %ETHPORT-2-IF_SEQ_ERROR: Error (0x20) while communicating
with component MTS_SAP_ELTM opcode:MTS_OPC_ETHPM_PORT_PHY_CLEANUP (for:RID_PORT:
Ethernet3/1) ]>> </aml-block:Data> </aml-block:Attachment> <aml-block:Attachment
type="inline"> <aml-block:Name>show vdc membership</aml-block:Name> <aml-block:Data
encoding="plain"> <![CDATA[
vdc_id: 1 vdc_name: dc3-test interfaces:
    Ethernet3/1          Ethernet3/2          Ethernet3/3
    Ethernet3/4          Ethernet3/5          Ethernet3/6
    Ethernet3/7          Ethernet3/8          Ethernet3/9
    Ethernet3/10         Ethernet3/11         Ethernet3/12
    Ethernet3/13         Ethernet3/14         Ethernet3/15
    Ethernet3/16         Ethernet3/17         Ethernet3/18
    Ethernet3/19         Ethernet3/20         Ethernet3/21
    Ethernet3/22         Ethernet3/23         Ethernet3/24
    Ethernet3/25         Ethernet3/26         Ethernet3/27
    Ethernet3/28         Ethernet3/29         Ethernet3/30
    Ethernet3/31         Ethernet3/32         Ethernet3/33
    Ethernet3/34         Ethernet3/35         Ethernet3/36
    Ethernet3/37         Ethernet3/38         Ethernet3/39
    Ethernet3/40         Ethernet3/41         Ethernet3/42
    Ethernet3/43         Ethernet3/44         Ethernet3/45
    Ethernet3/46         Ethernet3/47         Ethernet3/48

vdc_id: 2 vdc_name: dc3-aaa interfaces:

vdc_id: 3 vdc_name: dc3-rbac interfaces:

```

```

vdc_id: 4 vdc_name: dc3-call interfaces:

]]>
</aml-block:Data>
</aml-block:Attachment>
<aml-block:Attachment type="inline">
<aml-block:Name>show vdc current-vdc</aml-block:Name> <aml-block:Data encoding="plain">
<![CDATA[Current vdc is 1 - dc3-test ]]> </aml-block:Data> </aml-block:Attachment>
<aml-block:Attachment type="inline"> <aml-block:Name>show license usage</aml-block:Name>
<aml-block:Data encoding="plain">
<![CDATA[Feature                Ins  Lic  Status Expiry Date Comments
                                Count
-----
LAN_ADVANCED_SERVICES_PKG      Yes  -   In use Never      -
LAN_ENTERPRISE_SERVICES_PKG    Yes  -   Unused Never       -
-----
]]>
</aml-block:Data>
</aml-block:Attachment>
</aml-block:Attachments>
</aml-block:Block>
</soap-env:Body>
</soap-env:Envelope>

```

関連資料

関連項目	マニュアル名
Call Home CLI コマンド	『Cisco Nexus 7000 Series NX-OS System Management Command Reference, Release 5.x』
VDC および VRF	『Cisco Nexus 7000 Series NX-OS Virtual Device Context Configuration Guide, Release 5.x』

規格

規格	タイトル
この機能がサポートする新しい規格または変更された規格はありません。また、この機能で変更された既存規格のサポートはありません。	—

MIB

MIB	MIB のリンク
<ul style="list-style-type: none"> CISCO-CALLHOME-MIB 	MIB を見つけてダウンロードするには、次の URL を参照してください。 http://www.cisco.com/public/sw-center/netmgmt/cmtk/mibs.shtml

Smart Call Home の機能履歴

表 6-11 に、この機能のリリース履歴を示します。

表 6-11 Smart Call Home の機能履歴

機能名	リリース	機能情報
SMTP サーバ コンフィギュレーション	5.0(2)	複数の SMTP サーバを設定する機能が追加されました。 「E メールの設定」(P.6-19) を参照してください。
Call Home メッセージの HTTP 転送に対する VRF サポート	5.0(2)	VRF を使用して、HTTP 経由で電子メールおよび他の Call Home メッセージを送信できます。「HTTP を使用したメッセージ送信のための VRF 設定」(P.6-21) を参照してください。
クラッシュ通知	5.0(2)	オンライン カードでのプロセス クラッシュに対してメッセージが送信されます。「イベント トリガー」(P.6-26) を参照してください。
宛先プロファイルのコンフィギュレーション	4.1(3)	コマンド destination profile http と destination profile transport-method は配信できません。「宛先プロファイルの変更」(P.6-14) を参照してください。

